

「独創塾」(国語)における小学生を対象とした作文指導の報告

廣瀬 裕作

A Report on Essay Writing Instruction for Elementary School Students

Yusaku HIROSE

はじめに

平成22年9月から11月にかけて、石巻専修大学共創研究センターサテライトキャンパス企画の一環として、石巻市内の小学生を対象に、独自の視点から国語と算数を教える「現代の寺子屋 石巻専修大学の独創塾」が開講された(資料①)。共創研究センターは、大学と地域自治体や企業とが、“共に創る”をキーワードに緊密に連携し、研究プロジェクトを企画・推進するとともに、石巻地域の活性化の重要な一翼を担うことを目指し、平成21年に設立された。本稿は、その地域貢献の一環としての独創塾の国語授業に関する報告である。以下、実施要領、実施の概要、各回の授業内容の順に記述する。

1 「独創塾」実施要領

1. 将来社会人となり活動していく上で不可欠となる、自ら考える力、考えたことをまとめ、伝える力を早期に養う。そのために、ともしればしたくないと思ってしまう勉強を、自ら進んで取り組みたいと思わせるような独創的な教育を行う。
2. 抽象的思考力が発達し始める小学5年生を対象として、定員は25名とする。
3. 平成22年度の9、10、11月の3ヶ月にわたり開講する。平成23年度からは、前期は4、5、6月、後期は9、10、11月に開講予定。(平成23年度は、東日本大震災の発生により中止された。)
4. 開講日は毎週水曜日とし、以下の時間割で実施する。
国語 16:20～17:05
算数 17:10～17:55
5. 国語担当教員(廣瀬裕作)、算数担当教員(2名)が受け持つ。教員は教材開発及び授業を担当する。

6. 開講時間帯の関係上、対象校は、石巻小学校、住吉小学校、湊小学校、釜小学校、山下小学校、蛇田小学校、大街道小学校、鹿妻小学校の計8校とする。
7. 教室として、石巻市役所5階「協働社会創造スペース」を使用する。
8. 石巻専修大学共創研究センター、石巻市、石巻市教育委員会の共催とする。

2 実施の概要

国語の授業では、「自分の考えをまとめ、伝える力を身につける」ことを目指し、生徒に多くの文章に触れさせ、また様々な形式の文章を書かせる授業を行った。

全十二回を作文、小論文、読書感想文の三パートに分けた。比較的書き方に制約のない自由作文から始め、論理性を重視する小論文に移り、最後に読書感想文の書き方を学習した。読書感想文については、課題として指定した小説を読み終わるまで或る程度の時間が必要と思われたため、最後に行った。

最初の授業で、生徒一人一人の学習環境を尋ねるアンケートを行った(資料②)。その結果、「文章を書くことは好きですか」という問いに対し、20%の生徒が「好き」、65%が「まあまあ」、15%が「いいえ」と答えた。読書については「好き」と答えた生徒が75%、「まあまあ」と答えた生徒が25%であった。ほぼ全員が作文の書き方を学校で習っており、毎週、作文の宿題が課される生徒もいた。一方、読書感想文の書き方を習っているのは45%、小論文の書き方を習っている生徒はいなかった。このように、大半が文章を書くことを嫌いではなく、自由作文は比較的書き慣れているが、読書感想文や小論文など、ある程度型を踏まえて書くスタイルには慣れていないという結果であった。読書感想文に関しては、何をどのよ

うに書いたらよいのか分からず、作文と違って書くことが苦痛である、という生徒も少なくなかった。

これらのアンケート結果を踏まえ、文章を書く素地はあるが、明確な構成や論理を持つ文章には必ずしも慣れていない生徒を中心に、書くことに苦手意識がある生徒にも目配りしつつ、自分の考えをまとめ・伝える力を身につけることを目指した。指導の際には、学習指導要領の国語〔第5学年及び第6学年〕目標、「(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。」「(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」(注1)を意識した。

初回にスケジュール表を配布し(資料③)、全十二回の予定を説明した。毎回、その日の学習内容や課題を記載したプリントを配布し、基本的にそのプリントに沿って授業を進めた。プリントやその他の教材は、独自に作成したものを使用した。また、全員に原稿用紙形式のノートを配布し、作文は全てそこに書かせ、統一書式で学習できるようにした。

授業中は、生徒が例文を音読し、課題をめづって意見を交わし、ホワイトボードに板書し、自分で書いた作文を発表する機会を多く設けた。また、模造紙や絵教材なども利用し、視覚的効果を重視した。

授業の後、算数の時間内に、生徒がその日にノートに書いた文章をコピーし、次の週までに添削結果を書いて返却した。(ノートは帰りがけに各自に返却した)。授業中に書き終わらないものについては宿題とし、次の週に発表させ、再度回収し、添削した。プリントや配布物を綴じるためのファイルも配布し、紛失や忘れ物を極力防いだ。

また、独創塾文庫として、小学校低学年～中学校低学年程度の文学書、科学書など幅広い分野の書籍を多数用意し、貸し出しを行った。返却の際には、読書ノートに感想を書いて提出させた。

最終回到授業評価のアンケートを取り、今後の改善のための参考とした。また、成果報告として、

それまでに書かせた作文の中から、自薦・他薦両方を含む、生徒全員の作文を選び、文集を作成した。

このように、授業時間外にも継続的に読書や作文に従事させる環境を作り、読み・書く習慣がつくよう心がけた。

3 各回の授業内容

第一回 作文① 構成をマスターしよう

第一回～四回目は、明快な構成のある作文の書き方を学習した。生徒達は、思いつくままに自由な形で文章を綴ることには慣れているので、作文として洗練度を高めることを目指し、まず型(構成の取り方)に慣れさせ、それを踏まえて個性を引き出すことを目指した。

第一回目は、文章の並べ替え等により構成を意識する練習を行った。生徒はまず、順序がばらばらになった複数の四コマ漫画を元の順序に並べ替え、四部構成(起承転結)のパターンに慣れた。次に、同じく順序が混乱させられた複数の四部構成の作文例(ゲーム、恐竜、宇宙人などを扱った例文)を、四コマ漫画と同じ要領で正しい順序に並び替え、文章の構成を、抽象的な説明によってではなく、感覚的に把握した。

次に、四部構成の三部目(転)が空欄になった幾つかの例文について、前後の文脈に合わせ、自由に文章を書き入れる練習を行った。型を与えた上で、文章の山場や転換点にあたる三部を書かせたので、何を書くべきかイメージし易かったらしく、作文に苦手意識のある生徒も、比較的短時間で書くことができた。以上を、生徒による音読や発表も交えながら進行させた。

第二回 作文② 4部構成を使って短文作成

前回をふまえ、簡単な四部構成を書く練習を行った。生徒達はまず、与えられた四部構成の作文例の各部の関係や役割について、自分の言葉で説明し、構成について理解を深めた。次に、一行目だけが書かれた例文について、その後をどう続けるか意見を出し合い、ホワイトボードに文案を書きながら、みんなで例文を完成させた。

次に、生徒各自が簡単な四部構成を作成した。今回は内容よりも構成が重要なので、題目は書き

やすさを考慮して「私は～です」「私は～が好きです」「或る日…」などオーソドックスなものを選んだ。四部構成にすることで、個々のパートは短くても、ある程度の長さのある、まとまりのある文章が書けるようになった。書いた後、何人かが発表し、書き終わらないものについては宿題とした。

第三回 作文③ 具体的に、言いたいことをはっきりと書こう

添削した生徒の作文に構成が不明瞭な例があることから、第三回は、望ましくない構成例について問題点を考え、書き直す練習を行った。出来事をただ列挙しているだけの例文や、散漫な例文、言いたいことがはっきりしない例文が示され、生徒達は、どこに問題点があるのか、話の焦点を明確にするにはどうすればいいのか意見を出し合い、訂正例を考えた。

次に生徒達は、言いたいことをはっきりさせるため、焦点を絞って書く書き方を練習した後、構成が明瞭ではない他の文例について、各自で訂正案を書き、自分の作文についても書き直しを行った。書き直しの結果、出来事を列挙するだけの文章を書いていた生徒が、盛り上がりのあるメリハリのきいた文章が書けるようになった。

第四回 作文④ 応用…400字以上の作文を書てみよう

前回、不明瞭な構成を書き直す練習を行ったので、今回は個別の表現について、具体的に・目に浮かぶように書く練習を行った。例えば感情表現に関して、うれしかったです、かなしかったです、きれいでした、という形容詞・形容動詞だけで済ませる生徒がいるが、そのような既成の語句で済ませず、自分の感情の動きを見つめ、それを具体的に、読者が追体験できるように表現するにはどうすればいいかを、生徒と一緒に考えた。そして描写の仕方や比喻表現などを練習した後、常套句を多用した幾つかの文例について、感情や情景を自分なりの言葉で書き換える練習を行った。形容詞を使って自分の感情を一言でまとめなくてもよいと気づいた生徒達は、心情の細部や変化を文章に反映させ、生き生きとした感情表現を行った。

原稿用紙の表記法などを確認した後、作文のま

とめとして、①構成を意識して書く、②言いたいことをはっきりさせる、③感情や情景を具体的に表現する、という点に注意しながら、400字以上の作文を完成させた。

第五回 新聞記事の読み取り方

小論文の書き方の準備として、論説文に慣れるため、また、学習指導要領の〔第5学年及び第6学年〕「C読むこと」の言語活動例「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと」(注2)を踏まえ、新聞の読み方を学習した。生徒達は、身近な題材を扱った記事(「ケータイが縛る生活」朝日新聞2010年9月7日)について、見出しの見方や紙面構成など基本的な事柄を学んだ後、重要だと思う箇所に線を引き、「この記事が伝えたいことは何か。その出来事はなぜ、どのようにして起こっているのか。その出来事は社会にどんな問題を投げかけているか」といった観点から内容を要約した。

抜き書きと要約の区別が不明確な生徒や、簡潔に要約ができない生徒のために、要約の仕方も練習した。その後、記事を読んで考えたことについて、各自が意見文を書いた。(この時点では小論文としての構成を備えなくてもよい。)

未習の漢字や表現が多い文章だったが、記事全体を隅々まで理解できなくても、重要な箇所に線を引いたり、記事の構成を把握することで、話の要点がつかめることが理解できた。

第六回 小論文① 2部構成…メモを取ろう

第六～九回は小論文の書き方を学習した。ある問題に関する自分の意見とそう考える理由を、説得力をもって伝える力を身につけることを目指した。構成は四部構成(第一部…結論ないし意見、第二部…そう考える理由、第三部…想定される反論への対処、第四部…まとめ)を基本に考えた。

生徒はまず、作文(自分の体験や感じたことを綴った文章)と小論文(何かを論じた文章)の文例を比較し、違いを考察した。次に、話しことばなど、小論文として不適切な言い回しを混ぜた文例について、論じる文章にふさわしい文体に訂正する作業を行った。

次に四部構成の小論文を書く準備として、論旨

を二部構成に単純化して考える練習を行った。生徒はまず、身近な話題をめぐって賛成／反対を問う課題について、賛成の立場としてはどのような意見がありうるか、また反対の立場としてはどのような意見がありうるかを考え、それぞれノートに文案を書き出した。この作業により、自分とは異なる意見・立場への想像力を働かせる訓練を行った。

生徒達は、通常は賛成・反対それぞれ一方の立場でしか書く機会がないからか、立場を入れ替えて考える作業に興味を示し、柔軟な発想を示してくれた。

第七回 小論文② 2部構成を完成させよう

前回生徒が書いた賛成／反対の文案の中で、なぜそう考えるのかという理由を述べた部分が、たんなる好き嫌いなどの感情論になっているケースがあるため、この回はまず、理由が感情論ではない例文と、論拠として正当な形になっている例文を多数並べ、どれが小論文としてふさわしいかを見分ける練習を行った。不適切な例文については、生徒みんなで訂正案を考え、一文を完成させた。

次に、生徒は前回各自がノートに書いた二部構成文案について、理由部分が論拠としての条件を満たしているか点検し、不適切な場合は、望ましい形に書き直した。

次に、別の課題について、①自分の意見・立場を明確にする、②なぜそう考えるのか理由を述べる、という二部構成で小論文を完成させた。

前回の授業では、結論に対する理由部分が好き嫌いや気分を終始していた生徒も、今回の授業で、感情論では説得力がないということに気づき、具体例等を挙げながら、理由を説明できるようになった。

第八回 小論文③ 4部構成…3部・4部を中心に

前回の二部構成に続き、「論じる」文章に不可欠の手続きとして、「自分とは異なる意見を持つ人たちの反論を想定し、それに答える」練習を行った(三部)。まず四部構成全体が完成している見本文について、それぞれの塊がどのような役割を果たしているかを、生徒が各自の言葉で説明した。

次に実際に三部を書く準備として、生徒達は、賛成／反対で答えられる課題について、自分と対立する意見や立場としてどのようなものがありうるかを想像し、「もちろん…という意見もあるだろう」という文型に当てはめて書いた。続けて、その想定される他者からの反論に対し、筋道立てて反論する方法を考え、文案を書いた。

他者からの反論を想定し、それに対し反論するという作業は多くの生徒には難しく、また一、二段との関係が分からず混乱した生徒もいた。ただ、この作業を通じ、他者と議論することの重要性に気づき、様々な反論法を試みる生徒もいた。

第九回 小論文④ 4部構成を完成させよう

前回書いてもらった「想定される他者からの反論に答える」部分について、反論への答え方に説得力がないケースもあるため、この回はまず、三部での論駁過程が不適切な例文を示し、なぜ・どこが不適切なのか説明させた上で、適切な内容に改めさせる作業を行った。次に、生徒達は、前回各自が書いた三部が、他者の意見への反論として適切な論理を備えているかを点検し、不適切な場合は書き改めた。さらに結論部を書き加え、例文を完成させた。

上記の練習をふまえ、新たな課題について、400字以上で四部構成の小論文を完成させた。

第十回 読書感想文① 本の内容を説明しよう

10～12回は、既に全員に配布していた指定図書(湯本香樹実『夏の庭』)を題材に、読書感想文の書き方を練習した。小論文に関しては四部構成で練習したが、読書感想文に関しては、小学5年生対象として、小論文におけるような論証過程が必ずしも必要ないと判断したため、書き出し(導入)、感想、まとめの三部構成で練習した。

一回目は、書き出しとしてあらすじを選び、読んだことがない人にも分かるように、ただし長くなりすぎないように書く方法を問ひかけ、ノートに文案を書かせた。生徒たちは、エピソードを具体的に詳しく書きすぎる傾向があるため、話の細部にとらわれず、中心となる要素だけ(5W1Hなど)を簡潔に説明するよう指導した。また具体的なエピソードは、感想文の別のパートで使用する

よう促した結果、大部分の生徒が二百字ほどであらすじをまとめることができた。

次に、生徒達は、印象に残った場面やセリフに付箋を貼り、それぞれの箇所について、簡単な感想をノートに書き出した。付箋を多く貼りすぎる生徒がいたので、場面を絞り込むようにアドバイスをした。

第十一回 読書感想文② 様々なパターンで書いてみよう

前回、二部の準備として印象に残った場面にコメントを書いたので、今回は、それらのコメントを元にして、どこが・どのように面白かったかという観点から二部を完成させた（下記考え方1）。次に、同じ作品に関して様々な視点から感想文を書くことができることを体得するため、上記とは異なる構成パターンを示し、それらのパターンに従って書き分ける練習を行った。これらを考え方1～4として、それぞれ視点を変えつつ、段落ごとにメインとなるフレーズを例示しながら、各構成例をプリントに示した。

考え方1 どこがおもしろかったか、興味を引かれたか、自分の体験と比較して、など

考え方2 疑問に思ったこと、共感できなかったこと

考え方3 何を考えさせられたか

考え方4 その本のテーマ（主題）を考える

生徒達は、上記の2～4のうちからいずれかを選び、二部を書いた。段落ごとに書き出しのフレーズが与えられているので、普段書き出しに時間のかかる生徒も比較的取りかかりがスムーズだった。書くことが速い生徒は2～3パターンを使って書き分けていた。

以上のように様々なパターンを書き分けることで、多様な視点や構成がありうることを理解させた。

第十二回 読書感想文③ 自分なりの構成で完成させよう 本の紹介文を書こう

前回、様々なパターンで読書感想文を書かせたので、今回はまとめとして、自分なりの構成に従って読書感想文を完成させた。

複数のアプローチ方法を学んだ結果、物語に対

する洞察が深まり、前二回の授業で書いた感想文よりも分量も多く、様々な視点から『夏の庭』という物語をとらえられるようになり、まとめ方もより考えられたものになった。

感想文を既に関心している生徒は、これまで授業外で読んできた独創塾文庫の中から、興味を引かれた本を選んで、紹介文を書いた。紹介文については、読んだことのない人に読んでみたいと思わせるような書き方を工夫した。

独創塾文集について

十二回の授業の中で生徒達を書いたメモ、練習作文、清書された作文のなかから優れたものを選び、独創塾文集を作成した。自薦、他薦の両方の観点から選んだ。自薦の作文については生徒の手書きをそのままコピーして収録した。完成された作文だけでなく、授業中に書いた下書きなどからも採録し、後から授業の流れが再構成できるように心がけた。また、「独創塾文庫」として貸し出していた本、及びこれまで読んできた本に関して書いてもらった紹介文も収録した。文集は、完成後、生徒の全員に学習の成果として配布した。

終了時のアンケート

終了時のアンケートでは、生徒から、「国語では、作文、ろん文、読書感想の書きかたがくわしくわかりました。また、たくさん本をよめて、とても楽しかったです」、「苦手な感想文ができるようになった」、「役に立った」などの回答を得た。また保護者から、「作文はとても苦手でしたが、文章の構成のコツをつかみ、よくまとめられるようになり、文章を書くことが好きになりました」、「小論文の指導では、「書く」ことはもとより、要点を押さえながら「読む」力をつけたようです」、「国語の授業では、初めて1冊の文庫本を読み切り、作文もだいたい書けるようになったと思います」などの評価を得た。一方で生徒から、教員が使う言葉について「ときどき分からない言葉があった」、授業スタイルが「地味だった」などの批判もあった。

まとめ

独創塾の授業を通して、子ども達の想像力の豊かさや観察力を実感した。彼らは、日常生活の

様々な出来事や問題に関して、それぞれ自分の意見を持っており、課題を与えられるとすぐに対応できる生徒もいた。一方で、自分なりの印象や考えはあっても、それを自由に表現しなさいと言われると、何から初めていいのか分からず戸惑ってしまう生徒もいた。また、既成の“正論”や“型”のイメージが既にインプットされており、そのため下書き段階での個性的な感じ方や意見を、清書段階で消してしまう傾向も見られた。

そこで今回の取り組みでは、明確な構成を踏まえた上で個性的に表現する方法を生徒たちに習得してもらいたいと考えた。作文、小論文、読書感想文に分け、それぞれの内容や傾向に即した構成の枠組みを示すことにより、書き始めで苦勞していた生徒も、与えられた枠の中で比較的楽に書き出すことができたと考える。また、初めのうちは、考えたこと感じたことを思いつくままに列挙していた生徒も、構成の感覚が身につくにしたがって、伝えたいこと、表現したいことが、まとまりのある文章で書けるようになった。

週一回、45分という時間的な制約があり、授業中に課題の文章を書き切れない生徒がほとんどであったが、ほぼ全員が、翌週または2週間後までには、課題文を完成し提出してくれた。提出された文章を見ると、相手に自分の考えや、自分の作った物語を夢中になって伝えようとしていることが見て取れ、書くことを楽しんでいたことがうかがえた。

出席率も大変よく、校区の関係で開室時間に間に合わせにくい生徒の他は、ほぼ毎回欠かさず出席した(出席率97.2%)。異なる小学校から集まってきた生徒達であるが、休み時間の生徒同士の会話なども盛んで、良好な雰囲気の中で授業することができた。

独創塾は今回が初めての試みであり、毎週試行錯誤しながらの授業であったが、生徒達が積極的に参加し、期待以上にこちらの意図をくみ取ってくれたので、基本的に成功裡に終えることができたと考える。

注

(1)『小学校 学習指導要領』(平成20年3月告示)第2章 第1節 国語〔第5学年及び第6学年〕

1 目標より。

(2) 同上 2 内容 C 読むこと (2) ウ。

資料①

独創塾 面白い



楽しく国語の授業を受ける5年生—石巻市役所

石巻専修大准教授ら 趣向凝らし授業

石巻専修大の先生たちが趣向を凝らした楽しい授業を行う「独創塾」が1日、石巻市役所市民活動センターに開講した。独自の教材を活用し、自らの考えをまとめ、伝える力を身に付けてもらうことが狙い。対象になった市内の小学5年生25人が参加した。

11月まで計12回

独創塾は、国語と算数の2教科で、ともに50分授業。毎週水曜午後4時から5時50分まで月4回、11月まで計12回開く。授業を担当するのは、国語が理工学部

広瀬裕作准教授、算数が同学部の指方研二准教授、原口和也助教の計3人。国語では、まとめる力、

分ける力、伝える力を育てる。算数はパズルなどを使って、図形的なセンスや道筋を立てて考える力を磨く。

初日の国語では、作文の構成について学んだほか、算数はパズルを生かした授業を楽しんだ。蛇田小の伊藤小雪さん(10)は「学校の授業とはちょっと違って面白かった。この機会にたくさん勉強したい」と話していた。

地域・社会貢献の一環として、石巻専修大共創研究センターが石巻市、市教委と共催して初めて開講した。

独自の教材を活用

石巻かほく
平成22年9月3日(金)

「独創塾」(国語)における小学生を対象とした作文指導の報告

資料②

独創塾 国語 第一回 アンケート結果(回答者数…生徒 25 人中 20 名)

本を読むのは好きですか	はい 75%	いいえ 0%	まあまあ 25%
家で新聞を取っていますか	はい 75%	いいえ 25%	
毎日新聞を読んでいますか	はい 35%	いいえ 65%	
文章を書くことは好きですか	はい 20%	いいえ 15%	まあまあ 65%
作文の書き方を習ったことはありますか	はい 95%	いいえ 5%	
読書感想文の書き方を習ったことはありますか	はい 45%	いいえ 55%	
小論文の書き方を習ったことはありますか	はい 0%	いいえ 100%	
学習塾に通っていますか	はい 15%	いいえ 85%	
部活動もしくは地域のクラブで活動していますか	はい 30%	いいえ 70%	
習い事をしていますか	はい 90%	いいえ 10%	

資料③

独創塾 国語 授業スケジュール

		授業内容
1	9/1	作文① 構成をマスターしよう
2	9/8	作文② 4部構成を使って短文作成
3	9/15	作文③ 具体的に、言いたいことをはっきりと書こう
4	9/22	作文④ 応用…400字以上の作文を書いてみよう
5	9/29	新聞記事の読み取り方
6	10/6	小論文① 2部構成…メモを取ろう
7	10/13	小論文② 2部構成を完成させよう
8	10/20	小論文③ 4部構成…3部・4部を中心に
9	10/27	小論文④ 4部構成を完成させよう
10	11/10	読書感想文① 本の内容を説明しよう
11	11/17	読書感想文② 様々なパターンで書いてみよう
12	11/24	読書感想文③ 自分なりの構成で完成させよう 本の紹介文を書こう
		「独創塾」文集を作ろう